

公文書館所蔵資料のご案内

～過去から学ぶ市民学習のヒント～



H25.8.20 (水) ~ H25.10.31 (木)



- 開館時間:午前9時~午後5時 ●入館無料
- 休館日:土曜日・祝日(日曜日は観覧できます)

■久喜市下早見85-1(市役所西側) TEL0480-23-5010

URL <http://www.city.kuki.lg.jp/shisei/kobunsho/kobunsho/kobunsho.html>

■交通案内:JR宇都宮線・東武伊勢崎線 久喜駅西口下車徒歩7分

過去に学び未来を見つめる **久喜市公文書館**

「公文書館所蔵資料のご案内」を開催するにあたって

久喜市公文書館は、「歴史資料として重要な市の公文書その他の記録」を保存し、これらを計画的に整理し、一般の方の利用に供していくことを主な業務としています。

一般の方の利用とは、実際に利用者の方が手にとって閲覧することを第一に考えていますが、年1回実施している企画展や、企画展の会期中以外に開催している常設展などを通じて、公文書館や公文書館所蔵資料をわかりやすく紹介するような活動も行っています。

合併後4回目を迎える今回の企画展は、「公文書館所蔵資料のご案内～過去から学ぶ市民学習のヒント～」を開催することにいたしました。

久喜市公文書館が所蔵する様々な歴史資料の中から、利用しやすく、かつ、興味を引きそうなものの一部を選びすぐってご紹介いたします。

特に今年度は、『久喜市総合振興計画』に基づく市政運営の初年度に当たるといことで、その将来像「豊かな未来を創造する個性輝く文化田園都市～人と愛、水と緑、市民主役のまち」の土台を作っていく年でもあります。

市民が主役のまちづくりの土台を作るためには、常日頃の市民学習を推奨するだけにとどまらず、公文書館が所蔵している歴史資料を積極的に紹介していくことが必要であると考え、今回の企画展の副題にもありますように「過去から学ぶ市民学習のヒント」といたしました。

今回の企画展では、観覧されたお一人おひとりが新しい知見を得、知識欲が呼び起こされ、今後の継続的な市民学習のきっかけになることができれば、これ以上喜ばしいことはありません。

公文書館には、まるで私が若いときに愛読したスチーブンソンの『宝島』の財宝のように、市民学習のヒントになるものがたくさん眠っていて、利用者の発見を心待ちにしています。

市民の皆さまお一人おひとりの今後のご活躍が、さらなるまちの飛躍や新たなまちの魅力の掘り起こしにつながってくれることをご期待申し上げます。

平成25年8月

久喜市長 田 中 暄 二

● 主な内容

- 初級編
 - 1 まちの「歴史」を調べてみよう
 - 2 まちの「ルール」を調べてみよう
 - 3 まちの「データ」を調べてみよう
 - 4 まちの「民意」を調べてみよう
 - 5 まちの「風景」を調べてみよう

- 中級編
 - 6 「久喜」は納豆？
～室町時代の史料で考察した「久喜」～
 - 7 百年前の懇親会がはじまり？
～昭和初期の「新春賀詞交歓会」～
 - 8 丁字形の街並みが原風景？
～「絵図」でみる江戸時代の久喜町風景～
 - 9 久喜藩主の米津氏を知っていますか？
～伝存した「久喜藩主米津氏の遺産」～
 - 10 甘棠院の甘棠って何ですか？
～伝存しなかった亀田鵬斎の「甘棠院懷古」の漢詩～
 - 11 井上義輔とは何者か？
～所在不明の「亀田鵬斎書簡」「亀田綾瀬書簡」「太田錦城書簡」～
 - 12 甘棠院の古い鐘をご存知ありませんか？
～記録でのみ残る「甘棠院洪鐘銘」～
 - 13 地下に埋めたはずの中島撫山の墓誌を読む？
～「忘れてはいけない中島撫山墓誌」の拓本～

初 級 編

久喜市公文書館には、市民学習のヒントになる資料がたくさん保存されています。

しかし、初めて自分で調べてみようと思っても、なにかから調べればよいかかわからず途方に暮れてしまうことがあります。

初級編のコーナーでは、自分で調べてみようと考えている方のために、簡単に利用することができるいくつかの資料をご紹介します。

公文書館で、どのような資料が利用できるのかを確認し、自分の学習の課題を明確にしてみてください。

すでに課題が明確になっている方は、自分が欲しい情報がなんなのか、どのような予備調査・事前学習を行ってきたのかななどを正しく伝えて、公文書館職員に相談してみてください。最適な資料や、さらに的確な情報を案内してくれると思います。

1 まちの「歴史」を調べてみよう

久喜市域の古い「歴史」について調べようとするときに、久喜市公文書館で簡単に利用できて参考になる度合いが高いのは、既刊の「自治体史」です。

本市では、『久喜市史』（通史編、資料編、自然編、民俗編などのほかに調査報告書等があります。）、『菖蒲町の歴史と文化』（通史・資料編のほかに調査報告書等があります。）、『鷺宮町史』（通史、史料のほかに町史資料等があります。）と、現在編さん中の『栗橋町史』（資料編、民俗のほかに町史資料等があります。）に加えて、文化財報告書等の報告書類や郷土資料館の展示図録等の刊行物も参考になります。

「自治体史」というとイコール「歴史」と考えてしまいがちですが、「自然編」や自然災害の記述等もあり、その内容は意外と多岐にわたっています。

なお、変わったところでは、平成22年3月22日の合併に至る『新「久喜市」誕生の軌跡』という冊子もあります。

一方、比較的新しい時代や、主に行政の動きについて調べようとするときに、久喜市公文書館で簡単に利用できて参考になる度合いが高いのは、「広報紙」です。

新市の「広報くき」「広報くきお知らせ版」と平成5年（1993）の久喜市公文書館開館以降の旧久喜市の「広報くき」、「広報くきお知らせ版」はもとより、合併前の旧町の「広報紙」についても、合併後に在庫のあったものについては保存するようにしました。

特に、縮刷版を発行していた旧久喜市や旧鷺宮町については、かなり古い時代の「広報紙」まで遡って利用することが可能です。

また、久喜市公文書館開館後の平成8年（1996）度以降は、旧久喜市及び新久喜市の「広報紙」に掲載された写真のネガフィルムや電磁的記録を保存するようにしていますので、「広報紙」に顔写真などが掲載された方は、将来、若かりし時代の自分に出会ったり、子

や孫に自慢したりすることもできるかもしれません。

このほかに、市立の中学校・小学校・幼稚園や図書館、児童センター、水道部、市議会などでは、「〇〇だより」といった名称の広報紙を定期的に発行していて、これらのバックナンバーも公文書館では利用することができます。

主な参考資料

種 別	文書番号	文 書 名	備 考
閲覧室開架資料		『久喜市史』	旧久喜市
閲覧室開架資料		『久喜市史調査報告書』	旧久喜市
閲覧室開架資料		『菖蒲町の歴史と文化財』	旧菖蒲町
閲覧室開架資料		『菖蒲町史調査報告書』	旧菖蒲町
閲覧室開架資料		『栗橋町史』（『久喜市栗橋町史』も含む）	旧栗橋町
閲覧室開架資料		『栗橋町史資料』（『久喜市栗橋町史資料』も含む）	旧栗橋町
閲覧室開架資料		『鷺宮町史』	旧鷺宮町
閲覧室開架資料		『鷺宮町史資料』	旧鷺宮町
閲覧室開架資料		『久喜市文化財調査報告書』	
閲覧室開架資料		久喜市鷺宮郷土資料館『特別展図録』	
閲覧室開架資料		『新「久喜市」誕生の軌跡』	
閲覧室開架資料		『広報くき・広報くきお知らせ版』	
閲覧室開架資料		「学校だより・園だより」	
閲覧室開架資料		『久喜市議会だより』	
閲覧室開架資料		『久喜市農委だより』	
※ 旧1市3町の時代に作成したものの一部保存しています。詳しくは公文書館職員にお尋ねください。			

2 まちの「ルール」を調べてみよう

住民の義務や権利に関係する条例や規則といった「ルール」を調べるときに、久喜市公文書館で簡単に利用できて参考になる度合いが高いのは、「例規集」です。

現在の「例規集」はデジタル化され、市のホームページから、最新の情報が、自宅のパソコン等で、いつでも閲覧することができるようになっています。

しかし、このようなインターネット環境がない方や、調べものはやはり紙でないという方のために、毎年3月31日現在の例規集のデータを紙に打ち出したものを公文書館の閲覧室に配架してありますので、ぜひご利用ください。

デジタル化される前の「加除式例規集」については、旧久喜町時代のものとしては、「久

喜町条例集」を2点、「久喜町例規集」を6点保存していて、旧久喜市時代のものとしては、「久喜市例規集」を9点保存しています。

これらの「加除式例規集」のうち最後に加除した内容現在がわかっているものとしては、昭和46年（1971）、昭和52年（1977）、昭和54年（1979）、昭和55年（1980）、平成13年（2001）のものがあります。

このように、最新の例規については簡単に利用できるようになっていますが、残されている「加除式例規集」から旧久喜市のおおよその過去の流れもつかめますが、もっと具体的かつ詳細に調べるときや旧町の例規を調べるときは、別途調査が必要になりますので公文書館職員にお気軽にご相談ください。

なお、1つの方法として、議会の議決を経なければならない「条例」にのみ限定するならば、議会の会議録資料などから履歴を追いかける方法がありますが、議会の会議録については、「4 まちの「民意」を調べてみよう」でご案内いたします。

このほか、変わったところでは、久喜市が加入している一部事務組合の北本地区衛生組合の「加除式例規集」も閲覧室に配架されていますので、ご利用ください。

なお、埼玉東部消防組合や久喜宮代衛生組合については、久喜市公文書館では「例規集等」を保存していません。それぞれの一部事務組合のホームページから閲覧するか、それぞれの一部事務組合に直接お尋ねください。

主な参考資料

種 別	文書番号	文 書 名	備 考
閲覧室開架資料		『久喜市例規集 1/2』 H25. 3. 31 内容現在	
閲覧室開架資料		『久喜市例規集 2/2』 H25. 3. 31 内容現在	
行政資料	5510	『久喜市例規集』 H13. 3. 30 内容現在	旧久喜市
行政資料	5509	『久喜市例規集』 H13. 3. 30 内容現在	旧久喜市
行政資料	5508	『久喜市例規集』 H13. 3. 30 内容現在	旧久喜市
行政資料	4958	『久喜市例規集』 S55. 4. 1 内容現在	旧久喜市
行政資料	4957	『久喜市例規集』 S54. 3. 31 内容現在	旧久喜市
行政資料	5507	『久喜市例規集』 S52. 10. 18 内容現在	旧久喜市
行政資料	4956	『久喜市例規集』 S52. 4. 1 内容現在	旧久喜市
行政資料	4955	『久喜市例規集』	旧久喜市
行政資料	5506	『久喜市例規集』	旧久喜市
行政資料	5505	『久喜町例規集』 S46. 4. 20 内容現在	旧久喜市
行政資料	5504	『久喜町例規集』 S46. 4. 19 内容現在	旧久喜市
行政資料	5503	『久喜町例規集』 S46. 4. 18 内容現在	旧久喜市
行政資料	5502	『久喜町例規集』 S46. 4. 17 内容現在	旧久喜市
行政資料	5501	『久喜町例規集』 S46. 4. 17 内容現在	旧久喜市

行政資料	4954	『久喜町例規集』 S46. 4. 17 内容現在	旧久喜市
行政資料	5500	『久喜町條例集』 S46. 4. 17 内容現在	旧久喜市
行政資料	4953	『久喜町條例集』	旧久喜市

3 まちの「データ」を調べてみよう

まちの様々な「データ」を調べるときに、久喜市公文書館で簡単に利用できて参考になる度合いが高いのは「統計くき」です。

新市発足後の「統計くき」については、すべてデジタル化され、市のホームページから、自宅のパソコン等で、いつでも閲覧することができるようになっています。

公文書館では、「統計くき」のデータを紙に打ち出したものを閲覧室に配架してありますので、ぜひご利用ください。

また、特殊なものとしては、担当課が毎年度作成している「久喜市の環境」や「久喜市の教育」、あるいは「行政評価の評価指標」といったようなものを活用することで、必要なデータを抽出することが可能になる場合もあります。

このほかに、市立の中学校・小学校・幼稚園や図書館、児童センターなどでは、「〇〇要覧」といった名称の冊子を毎年度発行していて、これらのバックナンバーも公文書館では利用することができます。

一方、まちのお金に関する様々な「データ」を調べるときに、久喜市公文書館で簡単に利用できて参考になる度合いが高いのは、毎年議会に資料として上程されて審議される「予算書」「決算書」「主要な施策の成果に関する調書」などがあります。

これらの資料は、議会参考資料として、議会上程時に利用できるようになりますが、この時点ではあくまで議決を経っていないものとして取り扱うように注意しなければなりません。

また、「予算書」「決算書」をもう少しわかりやすくしたものとして、担当課である財政課で「久喜市予算の概要」「久喜市の財政状況」「久喜市の財務書類4表」「決算に基づく健全化判断比率等の状況」などを作成しています。これらの資料も、市のホームページから閲覧できますが、紙に打ち出したものを公文書館の閲覧室に配架してありますので、ぜひご利用ください。

なお、国が行う統計調査（国勢調査等）の報告書については、久喜市公文書館では保存していませんので、統計調査の担当課である企画政策課にお尋ねください。

主な参考資料

種 別	文書番号	文 書 名	備 考
閲覧室開架資料		『統計くき』	

閲覧室開架資料	『久喜市の環境』	
閲覧室開架資料	『久喜市の教育』	
閲覧室開架資料	「事務事業評価結果等の公表」	
閲覧室開架資料	『学校要覧』	
閲覧室開架資料	『図書館要覧』	
閲覧室開架資料	『児童センター要覧』	
閲覧室開架資料	『久喜市一般会計・特別会計予算書』	
閲覧室開架資料	『久喜市一般会計・特別会計決算書』	
閲覧室開架資料	『一般会計・特別会計決算に係る主要な施策の成果に関する調書』	
※ 旧1市3町の時代に作成したのも一部保存しています。詳しくは公文書館職員にお尋ねください。		

4 まちの「民意」を調べてみよう

まちの「民意」を調べるときに、久喜市公文書館で簡単に利用できて参考になる度合いが高いのは「議会会議録の写し」と「常任委員会会議録の写し」です。

新市の「議会会議録の写し」と「常任委員会会議録の写し」は、すべてデジタル化され、市のホームページから、自宅のパソコン等で、いつでも閲覧することができるようになっています。

公文書館では、「議会会議録の写し」と「常任委員会会議録の写し」の紙で製本されたものを閲覧室に配架してありますので、ぜひご利用ください。

旧久喜市の「議会会議録の写し」については、平成5年の久喜市公文書館開館以降に保存してきたものが利用できます。

一方、合併前の旧町の「議会会議録の写し」についても、合併後に在庫のあったものについては保存するようにしました。

なお、「議会会議録原本」「常任委員会会議録原本」については、現在のところ、久喜市公文書館では保存していません。

このほか、議会に提出された様々な議会資料（議案や参考資料、陳情書や請願書など）についても、今年度と前年度の2年分を、公文書館の閲覧室に常時配架していますので、こちらもぜひご利用ください。

また、新市の議会が発行する広報紙として「久喜市議会だより」がありますが、旧久喜市のものについては昭和46年（1971）10月からのものが、久喜市公文書館で利用できます。

さらに、変わったところでは、隔年で相互に開催している女性議会と子ども議会の「会

議録」があります。

このほか、平成23年（2011）3月にまとめた、「久喜市総合振興計画 市民意識調査結果報告書」や「久喜市の地域福祉に関するアンケート調査報告書」なども、市民意識調査の一つとして利用価値が高いものです。

なお、久喜市公文書館では、附属機関等の会議録の写しも利用できます。

主な参考資料

種 別	文書番号	文 書 名	備 考
閲覧室開架資料		『久喜市議会会議録』の写し	
閲覧室開架資料		『常任委員会会議録』の写し	
閲覧室開架資料		『久喜市議会だより』	
閲覧室開架資料		『久喜市総合振興計画 市民意識調査結果報告書』	
閲覧室開架資料		『久喜市の地域福祉に関するアンケート調査報告書』	
閲覧室開架資料		「審議会等の会議録」の写し	
※ 旧1市3町の時代に作成したのも一部保存しています。詳しくは公文書館職員にお尋ねください。			

5 まちの「風景」を調べてみよう

まちの「風景」を調べるときに、久喜市公文書館で簡単に利用できて参考になる度合いが高いのは、「地図資料」です。

ここでいう「地図」とは、明治時代以降の近代的な測量を背景に作成されるものを指しますが、この「地図資料」にも様々なものがありますので、その中から主なものをご紹介します。

まず、新市の「久喜市全図」「久喜市都市計画図」「久喜市地形図（白図）」があります。これらは、久喜市公文書館で利用ができますが、有償で販売もしていますので、お求めの際は担当課である都市計画課または各総合支所建設課をお尋ねください。

また、新市の「久喜市道路線認定網図」「久喜市道路網図」もあります。自分の家の近くの道路が、「市道〇〇号線」なのかを確認する際に利用できます。

合併前の旧久喜市の「久喜市全図」「久喜市都市計画図」「久喜市地形図」「久喜市道路線認定網図」については、平成5年（1993）の久喜市公文書館開館以降に保存してきたものが利用できます。一方、合併前の旧町の「〇〇町全図」「〇〇町都市計画図」「〇〇町地形図」「〇〇町道路網図」についても、合併後に在庫のあったものについては保存するように

しました。

東日本大震災でも古い「地図資料」が話題になりましたが、久喜市公文書館には、旧久喜市で一般的に「旧公図」と呼んでいた地図200点余りを所蔵しています。これは、明治初期の地租改正時に作成されたものや、明治20年代以降に課税用の土地台帳を整備する過程で附属地図として作成されたものなどの総称として使用されていた言葉です。

そのなかで最も古いものが、地引絵図・地租改正図として江戸時代の村ごとに作成し、作成年代が明治初期に特定できるもので、久喜市公文書館では、「久喜新・久喜本・野久喜・古久喜」「栗原村」「江面村」「除堀村」「原村」「青柳村」のものが利用できます。

また、「青毛村」のものも、実際の作成主体であった戸長（こちょう）のお宅に伝えられてきたもので久喜市公文書館に寄贈されたものが利用できます。

なお、旧久喜市域のほかの村や旧菖蒲町域・旧栗橋町域・旧鷲宮町域の「旧公図」については、現在のところ、久喜市公文書館では保存していません。

主な参考資料

種 別	文書番号	文 書 名	備 考
閲覧室開架資料		『久喜市全図』 1/10000	
閲覧室開架資料		『久喜市全図』 1/15000	
閲覧室開架資料		『久喜市全図』 1/25000	
閲覧室開架資料		『久喜市都市計画図』 1/10000	
閲覧室開架資料		『久喜市都市計画図』 1/15000	
閲覧室開架資料		『久喜市都市計画図』 1/25000	
行政資料	13506	『久喜市道路線認定網図（久喜区域）』 1/10000 H25. 3. 8 補正	
行政資料	12947	『久喜市道路網図（菖蒲区域）』 1/10000 H24. 3	
行政資料	12951	『久喜市道路網図（栗橋区域）』 1/10000 H24. 3	
行政資料	12954	『久喜市道路網図（鷲宮区域）』 1/10000 H24. 3	
パネル資料		『久喜新・久喜本・野久喜・古久喜 全図』	旧久喜市
パネル資料		『栗原村 全図』	旧久喜市
パネル資料		『江面村 全図』	旧久喜市
パネル資料		『除堀村 全図』	旧久喜市
パネル資料		『原村 全図』	旧久喜市
パネル資料		『青柳村 全図』	旧久喜市
小林範夫家古文書	1107	「青毛村地租改正地番図」	
※ 旧1市3町の時代に作成したものも一部保存しています。詳しくは公文書館職員にお尋ねください。			

中 級 編

初級編では、簡単に利用することができて参考になる度合いが高い資料を紹介しました。こういった資料の存在を踏まえて、課題が明確になってきた方は、次の段階として、資料そのものを正しく読み解くことが必要になってきます。

中級編のコーナーでは、多少の予備調査や事前学習を踏まえて資料そのものを読み解いてみようと考えている方のために、何点かの資料を選びすぐって、できるだけわかりやすくご紹介いたします。

もちろん同じ資料を用いても、違った視点から眺めてみると、全く異なる結論になることもありますので、多様な視点から資料を検討するだけでなく、さらに問題点を絞り込み、公文書館所蔵資料以外の資料なども積極的に活用していくことで、自分の学習成果をより深いものにしていくことができるものと思います。

6 「久喜」は納豆？

～室町時代の史料で考察した「久喜」～

平成22年（2010）3月22日に1市3町が合併して、新たな市としてスタートいたしました。新市の名前は「久喜」で、漢字では「久」と「喜」を書き、読むときは「くき」と読みます。

地名としての「久喜」の由来について、『久喜市史 民俗編』239～240 ページでは、①「薪・柴等の燃料採取地を意味する地名」、②「山、岡、自然堤防などの小高い所」、③「久木の当て字であり薪山の意」などの説をあげていますが、現在の主流としては、自然堤防などの小高いところをさすという説が有力だと結んでいます。

一方、中島撫山は、「久喜は漢字にすれば岫で、岫の意味は岡の中のくぼみのことをいい、万葉集・東歌（あずまうた）の『武蔵野の 小岫（おぐき）が雉（きぎし） 立ち別れ 去（い）にし宵より 背（せ）ろに逢はなふよ』の「小岫（おぐき）」も同一の意味であろう」と生前弟子に語っていたという逸話も伝えられていて、この説によれば、むしろ窪みという正反対の考え方になります。

ただ、どちらの説も、地形が影響しているという点では一致しています。

ここでご紹介する資料は、これらの地名としての「久喜」とは別に、中島竦之助（なかじま・しょうのすけ）（中島撫山の三男・中島敦の伯父）が著した原稿で、「鎌倉開府起源」「清和源氏のあこがれ」など主に中世（鎌倉・室町期）の歴史を考察した19編の小文が収められているもののなかから、「唐鼓（とうし）」という題がつけられている1編です。

「唐鼓」の題名に用いられている「鼓」とは、音では「し」「じ」「ち」などと読まれ、訓では「くき（久岐）」と読まれる漢字で、納豆や味噌など最近流行の発酵食品を意味する文字です。

中島竦之助は、『蔭涼軒日録（いんりょうけんにちろく）』という室町時代に書かれた史料のなかに「唐鼓」や「久喜」と呼ばれる献上品や贈与品があることに注目し、「唐鼓」とは中国の製法によって作られた納豆を指して特に近江の金剛寺（こんごうじ）・京都の寶福寺（ほうふくじ）で作られていたものが恒例として毎年将軍に献上されていたことや、「久喜」とはわが国在来の製法によって作られた納豆を指して特に宇治の名産であったこと、などを論じています。

また、「唐鼓」が春の終わりから夏の初めまでと秋から冬までに多く利用され、湿気が少ないので折箱に入れて保管していたのに対し、「久喜」は正月に多く利用され、湿気があるため桶に入れて保管していたことなども指摘しています。

主な参考資料

種 別	文書番号	文 書 名	備 考
閲覧室開架資料		『久喜市史 民俗編』	旧久喜市
野原秋男家古文書	184	『新聞スクラップ（久喜の今昔 上・中・下）』	
中島元夫家古文書	3547	「唐鼓」	

7 百年前の懇親会がはじまり？

～昭和初期の「新春賀詞交歓会」～

市内各界の代表者及び一般市民の方々の交流の場を設け、親睦を深めるとともに、新年の幕あけを祝い、新しい年が久喜市にとって飛躍の年となることを願って、毎年1月上旬に「新春賀詞交歓会（しんしゅん・がし・こうかんかい）」を催しています。合併前は、1市3町様々な方法で行っていましたが、合併後は、久喜市新春賀詞交歓会を組織し、久喜市長が発起人の一人として代表を努めているところです。

古くは、ちょうど百年前の大正2年（1913）1月9日の国民新聞に「久喜町の懇親会」という見出しとともに「久喜町長宮内純（みやうち・じゅん）氏を始め同町民百餘名は五日富壽館（ふじゅかん）に懇親会を催ふし互に胸襟（きょうきん）を開いて講談壯語（こうだんそうご）の裡（うち）に散會（さんかい）盛會（せいかい）なりし」という記事が掲載されています。このように、遅くても大正時代には、久喜町でも新春賀詞交歓会のような行事が行われていた例が確認できます。

ここでご紹介する資料は、昭和3年（1928）から昭和6年（1931）までの「久喜町新年祝賀会会員名簿」4点です。

主催は、「温交会（おんこうかい）」「久喜町在郷軍人分会」「久喜町商工会」「久喜町農会」「久喜町役場」の5団体です。

これらの団体については、公文書館で所蔵している「昭和6年発行の『久喜町要覧』の

写し」に記述がありますので、簡単に紹介しておきましょう。

「温交会」とは、大正9年（1920）第1回国勢調査を記念するため、松永徳三郎（まつなが・とくさぶろう）氏の主唱とほかの有志の賛同によって、町の堅実な発展を目的とする社交団体として組織されたものです。

「久喜町在郷軍人分会」とは、日露戦争後の明治41年（1909）に軍事思想普及の目的をもって組織された在郷軍人同盟団が前身で、明治43年（1911）に改称されたものです。

「久喜町商工会」は、町の発展に伴って商工業の進展がみられたため、同業者が一致団結し、内には相互の和平親睦によって福利を増進し、外には販路の拡張に努めることを目的に、明治40年（1908）に組織されたものです。

「久喜町農会」とは、明治32年の農会令の発布によって總會制で組織されていたものが、大正14年（1925）の農会法の制定によって総代会制に変更されたものです。

主な参考資料

種別	文書番号	文書名	備考
行政資料	2388	『国民新聞（T2.1.9）』の写し	旧久喜市
野原秋男家古文書	148	『久喜町新年祝賀会会員名簿（S3.1.1）』	
野原秋男家古文書	149	『久喜町新年祝賀会会員名簿（S4.1.1）』	
野原秋男家古文書	150	『久喜町新年祝賀会会員名簿（S5.1.1）』	
野原秋男家古文書	151	『久喜町新年祝賀会会員名簿（S6.1.1）』	
行政資料	1838	『久喜町要覧（S6）』の写し	旧久喜市

8 丁字形の街並みが原風景？

～「絵図」でみる江戸時代の久喜町風景～

久喜の街並みの歴史を振り返ってみますと、まず16世紀前半に足利政氏（あしかが・まさうじ）の甘棠院（かんとういん）を中心にして、後の久喜本町（くきほんまち）に相当する久喜町が形成されました。

その後、17世紀初めに伊達政宗（だて・まさむね）の久喜鷹場御殿を中心にして、久喜新町（くきしんまち）が形成されたようです。この久喜鷹場は、伊達家が幕府に返上してしまうおよそ60年間の存在でしかありませんでした。

ただ、この久喜新町の形成発展によって、おそらく従来の久喜町が久喜本町となり、久喜本町と久喜新町という丁字形（ていじけい）の街並みをもつ久喜町が形成されたものと思われる。

17世紀後半になると、久喜藩主である米津（よねきつ）氏が、久喜本町（現在の中央公民館を南西角地とするあたり）に陣屋を置きました。この久喜藩も、18世紀末に藩主

が長瀨（ながとろ／現在の山形県東根市）に転封されるまでのおよそ115年程度の存在でしかありませんでした。

余談ですが、江戸時代の甘棠院寺領のほとんどは、久喜藩領の久喜本町・久喜新町とは関係がなく、独自に甘棠院村という村を形成していました。

ここでご紹介する資料は、最低3回の複写を経ていて、もはや原本の作成年代や原本そのものとの相違はわからなくなっていますが、おそらく17世紀後半から18世紀初め頃のちょうど久喜藩の陣屋が置かれた当時の久喜本町・久喜新町の風景をうかがい知ることができるものと考えられます。

久喜藩の陣屋はデフォルメされているものの、四方を垣のようなもので囲まれ、中央に本陣らしき建物が、西と南にはそれぞれ長屋が配置されています。この雰囲気は、18世紀末に明治政府が実施した古址（こし）調査の記録（国立公文書館所蔵）とほぼ一致していて興味深いものです。

また、この絵図の全体像と、『埼玉県営業便覧』をもとに作成した「明治35年（1903）当時の地街地図」（『久喜市史 通史編 下巻』203ページ）とを照らし合わせてみても、久喜駅が設置されたことを除けば、街並みの雰囲気はほぼ一致していることがわかるでしょう。

現在は、バス通りが北側の広くて新しい県道に移り、また商店街の各商店も大きく変遷していますが、商店街として今も残る旧バス通りと、その通りに直交する愛宕通りとが見せてくれる丁字形の街並みこそが、久喜の歴史の原風景ともいえるものなのです。

主な参考資料

種別	文書番号	文書名	備考
野原秋男家古文書	133	「久喜町絵図（江戸時代）」の模図	
閲覧室開架資料		『埼玉県史料叢書 4（埼玉県史料4）』	図書
閲覧室開架資料		『埼玉県営業便覧』	図書
閲覧室開架資料		『久喜市史 通史編 下巻』	旧久喜市

9 久喜藩主の米津氏を知っていますか？

～伝存した「久喜藩主米津氏の遺産」～

江戸時代に、この地には「久喜藩」という藩がありました。

藩主は、徳川十六神将（しんしょう）にあげられる米津常春（よねきつ・つねはる）の弟・政信（まさのぶ）に連なる系譜で、初代の藩主3代政武（まさたけ）から4代政矩（まさのり）、5代政容（まさよし）、6代政崇（まさたか）、7代通政（みちまさ）の時代までのおよそ115年間存在した譜代の藩でした。

寛政10年(1798)に、7代通政が長瀨(ながとろ/現在の山形県東根市)に転封させられた後、この地は天領(てんりょう/幕府の土地)になって幕末を迎えます。

この地における久喜鷹場の痕跡同様に、久喜藩も、現在ほとんど何もその痕跡をとどめてはいません。

ただ、5代政容が寄進した石燈籠(いしどうろう/「武州久喜領主」「藤原氏 従五位下政容」とある。)で、享保6年(1721)の銘があるものが北1丁目の太田神社の敷地内にある祠(ほこら)の中に建っていて、これが唯一知られていた伝存資料でした。

ここでご紹介する資料は、2度にわたって旧久喜町長を務めた野原吉太郎(のはら・きちたろう)が、大正2年におそらく個人的に企画して、旧久喜町の文化財の一部を記録した「久喜町集古拾種(くきまち・しゅうこじっしゅ)」という資料です。

この資料の中から、1点は、天王院(てんのういん)の山門額「普應山(ふおうざん)」と書かれたもので、現在も天王院に残されているものです。野原吉太郎の記録では、上の落款(らっかん)が「米津氏」、下の落款が「政崇」と読めます。「政崇」は、6代政崇のことで、篇額(へんがく)の裏に書かれた記述から、政崇が45歳の時に書いてもらったものを、家臣の井上孫兵衛為重が、天王院に寄進したもののようです。

また、もう1点は、光明寺(こうみょうじ)の金堂額「瑠璃山(るりざん)」と書かれたもので、こちらも現在に至るまで光明寺に残されているものです。篇額の裏に書かれた記述から、初代藩主3代政武の武運長久・子孫繁栄・領土豊饒(ほうじょう)を祈って、家臣の高瀬源兵衛が光明寺に寄進したもののようです。書いたのは、その落款から、京都智積院(ちしゃくいん)智山派(ちざんは)の僧である運徹(うんしょう・号は泊如)であることがわかります。

主な参考資料

種 別	文書番号	文 書 名	備 考
野原秋男家古文書	168	「久喜町集古拾種」	

10 甘棠院の甘棠って何ですか？

～伝存しなかった亀田鵬斎の「甘棠院懷古」の漢詩～

16世紀前半に開寺された足利政氏(あしかが・まさうじ)ゆかりの甘棠院(かんとくいん)は、そのまま久喜の歴史の由緒でもあり、足利家のみならず、その後の豊臣秀吉・徳川家康などの天下人(てんかびと)からも尊ばれるほど、非常に格式の高い寺院でした。

ここでご紹介する資料は、江戸時代半ばに、江戸の庶民から大変人気のあった儒者で、久喜の遷善館(せんぜんかん)の教授でもあった亀田鵬斎(かめだ・ぼうさい)の「甘棠院懷古并序(かんとくいんかいこ・ならびにじょ)」という漢詩です。

とはいっても、この漢詩は、亀田鵬斎の刊行された詩文集などには掲載されていません。したがって、まず、その漢詩がどのようにして明らかになったのかをご説明しなければなりません。

「演孔」という蔵書印が押され、中島撫山（なかじま・ぶざん）の蔵書であったことがわかる亀田鵬斎の『善身堂詩抄 中（ぜんしんどうししょう・ちゅう）』という版本がありますが、その表紙見返りに、墨で「甘棠院懐古并序」と書かれた漢詩がありました。

この漢詩が、亀田鵬斎のものであるというヒントは、中島竦之助（なかじま・しょうのすけ）が著した「鵬斎先生ノ越佐鴻爪（えっさのこうづめ）」という原稿の中にありました。

この中で、竦之助は「先生の遺筆に久喜甘棠院懐古の序あり。文中に「丁卯之春余至其地」とあり。丁卯は文化四年なり」と記しています。

『善身堂詩抄 中』の表紙見返りに墨で書かれている漢詩には、「余丁卯歳遊于此」とあり、多少の文字の異同がありますが、恐らくこの漢詩を指していることは間違いないでしょう。

参考までに、中島撫山は「亀田三先生傳実私記（かめださんせんせい・でんじつしき）」を著し、竦之助は父親の著作をさらに増訂していますので、2人とも当時としてはかなり詳細に亀田鵬斎のことを調べていたはずです。

惜しむらくは、漢詩の出典を明らかにしていないこと、肝心の詩が失われていること、序文についてでさえもあるいは写し間違いがあることなどですが、それでも、江戸時代の知識人が甘棠院をどのように見ていたのかがわかる数少ない貴重な資料ではないでしょうか。

ちなみに、「甘棠」とは、「やまなしの類」を意味する果樹の名前のことです。

主な参考資料

種 別	文書番号	文 書 名	備 考
中島元夫家古文書	1309	『善身堂詩抄 中』	
中島元夫家古文書	3131	「鵬斎先生ノ越佐鴻爪」	
中島元夫家古文書	2446	「亀田三先生伝実私記 全（附諸家雑説伝文駁）」	

1.1 井上義輔とは何者か？

～所在不明の「亀田鵬斎書簡」「亀田綾瀬書簡」「太田錦城書簡」～

江戸時代に、久喜藩主である米津（よねきつ）氏が長瀬（ながとろ／現在の山形県東根市）に転封されると、この地は天領（てんりょう／幕府の支配地）になって代官が派遣されることになりました。そして、享和元年（1801）に赴任してきた代官が、既に名代官の誉れのあった早川正紀（はやかわ・まさとし）でした。

以前から、この地の住民は学校設立の強い思いを藩主米津氏に要望していたようですが、実現ならず、早川正紀の代官就任によって現実のものとなり、郷学（ごうがく）遷善館（せんぜんかん）が設立されました。

この遷善館の教授として名前が伝わっているのが、江戸でも儒家として著名な亀田鵬斎（かめた・ぼうさい）・亀田綾瀬（かめた・りょうらい）・太田錦城（おおた・きんじょう）・久保筑水（くぼ・ちくすい）などでしたが、これらの著名人と、この地の住民との交流は必ずしも明らかではありませんでした。

昭和44年（1969）に刊行された『埼玉県教育史 第二巻』254 ページには、「遷善館教官太田錦城が館の世話役に宛てた書翰（しょかん）の中に次のような文がある」として紹介しているのですが、この書翰でさえも現在では所在が不明になってしまっていたのです。

ここでご紹介する資料は、『埼玉県教育史』の編者が確認したであろうその書翰の写しを含む計3点で、昭和22年（1947）に野原吉太郎が旧久喜町の文化財の一部を記録した「久喜町集古拾種 其三（くきまち・しゅうこじっしゅ・そのさん）」という資料です。このなかに収められている「亀田鵬斎書簡」「亀田綾瀬書簡」「太田錦城書簡」の3点は、すべて遷善館の世話役である井上義輔（義介）（いのうえ・ぎすけ）宛てになっていることから、原資料は井上家に伝えられていたものだと思われれますが、現在もその所在は明らかではありません。

井上家は、『新編武蔵風土記稿』の遷善館の項で「村民清兵衛なるもの己が財を費して造営す」と記述のある村民清兵衛の家であると言われていています。また、井上義輔の実弟が幸手の金子家を嗣いで金子竹香（かねこ・ちくこう）と名乗り、亀田鵬斎の弟子として活躍したことが、亀田綾瀬が撰文して現在も幸手の聖福寺（しょうふくじ）に残されている金子竹香の顕彰碑からわかります。

明治以後の井上家の動静は明らかになっていませんが、天王院（てんのういん）に残されている井上家三代の墓だけは、江戸時代の井上家の存在を、今に至るまで伝えていきます。

主な参考資料

種 別	文書番号	文 書 名	備 考
閲覧室開架資料		『埼玉県教育史 第二巻』	
野原秋男家古文書	181	「久喜町集古拾種 其三」	
中島元夫家古文書	3127	「亀田文左工門書簡」(写し)	
閲覧室開架資料		久喜市史調査報告書第1集『地誌』	旧久喜市

1.2 甘棠院の古い鐘をご存知ありませんか？

～記録でのみ残る「甘棠院洪鐘銘」～

由緒と格式のある甘棠院（かんとういん）ですが、その長い歴史を有するがゆえに失われてしまった貴重なものもあります。

ここでご紹介する資料は、すでにご紹介した資料で、再登場の「久喜町集古拾種（しゅうこじっしゅ）」です。

この中で、野原吉太郎が「甘棠院鐘銘（しょうめい）」として記録したのが、今は存在していない甘棠院の鐘（かね）の銘文になります。

実は、甘棠院に残されている古文書で、現在は埼玉県立歴史と民俗の博物館に寄託されているもののなかにも、「洪鐘銘写（こうしょうめい・うつし）」というものがあります。

内容的には同じ鐘を対象にしたものですが、資料相互に文字の異同がありますので、大正2年（1913）に野原吉太郎が「久喜町集古拾種」を記したときには、まだ存在していた鐘の実物を見て筆写した可能性が高いものと考えられます。

銘文は、すべて漢文で書かれている難解なものですが、①明暦2年（1656）の甘棠院7世院主である岫雲玄端（しゅううんげんたん・円覚寺 159 世）に寄進したときの由来と、②安永4年（1775）に甘棠院13世院主である天啓周津（てんけいしゅうしん）に寄進したときの由来の2つの文章が刻されていたようです。

①では、兄の春晴院殿得譽浄生大禅定門の冥福を奉るために、弟の土井政道・土井之政の兄弟が、甘棠院に鐘堂（しょうどう）を建てるとともに、この鐘を寄進した旨が書かれています。

②では、甘棠院の開基である足利政氏が古河の御城から当地に来る際に持参してきた応永12年（1405）の銘がある鐘1尺7寸のものが響かなくなったためにこの鐘に鑄なおした旨と、政氏の履歴や甘棠院の由緒などが書かれ、最後にこの事業に関わって寄附した人の名前が書かれています。

寄付者のなかには、甘棠院村の渋谷家・猪股家などのほか、光明寺や久喜の宮本家、久喜本町の伊勢屋、久喜本町の万屋、清久村の斎藤家、上早見村の斎藤家、上清久村の川田家などの名前が記されていて、当時の甘棠院とのつながりを垣間みることができます。

また①・②どちらの制作も、天命鑄物（てんみょう・いもの）として有名な現在の栃木県佐野市犬伏町の職人が行ったことが、その銘文からわかります。

主な参考資料

種 別	文書番号	文 書 名	備 考
野原秋男家古文書	168	「久喜町集古拾種」	

1.3 地下に埋めたはずの中島撫山の墓誌を読む？

～「忘れてはいけない中島撫山墓誌」の拓本～

中島撫山（なかじま・ぶざん）については、終焉の地である久喜新町宅に、現在「中島撫山終焉之地」の石碑が立てられています。

これは、中島撫山が没した明治44年（1911）から30年を経過した後の昭和16年（1941）に、弟子たちがお金を出し合い、撫山の6男で小説家中島敦（あつし）の父親でもある田人（たびと）が撰文して立てられたものです。

また、このときには、撫山の3男竦之助（しょうのすけ）がまとめた『撫山中島先生略年譜』という冊子も出版配布されました。

ここでご紹介する資料は、その存在が全く伝えられてなく、中島家の古文書を整理する中ではじめてわかった「中島撫山墓誌（ぼし）」の拓本（朱拓）です。

ここでいう「墓誌」とは、現在一般的な墓の外に立てる墓石のことではなく、墓の中に棺と一緒にうずめる石のことで、死者に対する哀悼の意を表すために、死者の功績や徳行を称（た）える文を刻したもののことです。

したがって、何かのきっかけで掘り起こされない限りは、その存在はわからないことが一般的です。日本でも、奈良県の古墳などからたまに墓誌が出現することがありますが、きわめて偶発的な発見であることが多いようです。

撰文された文章の末尾に「これを土中に埋めるので、いつまでも忘れないでいて欲しい」という撰文者の思いは、拓本をとって残してくれたことで、百年の時を経てようやく後世の我々にも届けられました。

没してから4日後の27日に埋葬されたことも、この墓誌からわかった事実です。

撰文者は、撫山の長男・靖（やすし）の子どもで、撫山の孫にあたる蹟臣（もとおみ）がその任にあたっています。

蹟臣は、文章の最後に、「撫山先生の事業は、必ずしも今の世の中に正しく反映されたわけではないけれども、撫山先生の道徳や正しい行いは、あの孔子様とくらべても決して恥じるものではない。」として、漢学者中島撫山の最後を、「泰山頽ちて梁木壊る」の言葉でまとめました。

※ 泰山頽ちて梁木壊る【『全訳漢辞海』（三省堂）より】

泰山がくずれ、建物の梁が折れる。孔子が自分の死を予知して歌ったことば。のち、賢者の死をいう。

※ 早稲田大学名誉教授村山吉廣氏及び中島甲臣氏のご指摘により、展示図録の一部を訂正しました。ここに記してお礼申し上げます。

主な参考資料

種別	文書番号	文書名	備考
野原秋男家古文書	145	「中島撫山先生記念標建設控帳」	
中島元夫家古文書	3084	『撫山中島先生略年譜』（撫山中島先生三十年祭記念出版）	
中島元夫家古文書	2716	『中島撫山墓誌銘（朱拓）』	

おわりに～上級編へと続く道～

公文書館は、「社会がどれだけ民主的であるかを計るバロメーターになる」といわれています。様々な歴史資料や、それらの歴史資料から得られる情報を整理し、解析して、新しい知識を記録して、将来の「まちの記憶」として残すことができたら、それはすばらしいことだと思いませんか。

上級編とは、そういう思いをもって久喜市公文書館を積極的に利用して、その学習の成果をまとめられた方の成果品そのものです。

当館の所蔵資料を出版物等に掲載する場合は、成果品を一部ご恵贈していただくようお願いしています。公文書館では、市民の方がいきいきと学習するための最初の入口の一つとして、皆さまの積極的なご利用をお待ちしているとともに、その成果品を永久に保存していきたいと考えています。



久喜市公文書館 第4回企画展

「公文書館所蔵資料のご案内 ～過去から学ぶ市民学習のヒント～」

発行：平成25年8月20日

編集：久喜市総務部公文書館（久喜市下早見85-1）

TEL 0480-23-5010 FAX 0480-22-1996

E-mail kobunsho@city.kuki.lg.jp

※本図録中に「閲覧室開架資料」とあるのは、H25.8.20現在の情報です。